




教材教具名 ひらがなプリント	教科(国語科)	
<p>教材教具写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(写真1)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真2)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(写真3)</p> </div> </div>		
<p>教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ねらい 写真を見て、物の名称をひらがなで書けるようになる。 写真を見て、物の名称・形容詞・動詞を考えてひらがなで書けるようになる。 2 発達段階 文字ことばを獲得する時期 文章表現を獲得する時期 3 使い方 (1) プrintの写真を指さし、「これは何?」と質問する。 (2) 生徒が答えたことば(名称など)をひらがなで書くように指示する。 (3) 生徒自身がひらがなを思い出し、自分で考えて書くまでしっかりと待つ。 (4) 忘れてしまったひらがなは、自作の50音カードの中から自分で探し出すように指示する。(写真1) (5) 名称だけでなく、形容詞・動詞なども引き出していくようにしっかり待ちながら言葉かけをする。 		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)</p> <p>学習活動の導入で、デパートのマークやジュースの名まえ等、生徒にとって身近で興味のあるものを内容としたことで、意欲的に取り組むことができた。(写真2)</p> <p>生徒の実態によっては、ひらがなを記入する枠にマスを作らないほうが、自由な発想や形容詞、動詞などを引き出しやすい。(写真3)</p> <p>(例: 『とまと』 = <input type="text"/> ではなく、『とまと』 = <input type="text"/> など。)</p> <p>忘れてしまったひらがなを自分で探し出すという、自己解決法も、この取り組みの中で指導できる。そのためにも、生徒が考える時間をじっくりと持つことが重要である。</p>		